

コロナ禍と逆風の中でも進む参加と共同の教育

～教育の最大の受益者は子ども～

2021年9月25日
教育のつどい大阪2021 全体会
オンライン

I はじめに ※レジュメでは課題を中心に述べています。

「基調報告が物足りない!」「もっと詳しく知りたい」という方はまたお声がけください。

II 続く新型コロナウイルス禍の中で

0、教育を取り巻く多くの問題

- ・ 教育課程への介入（大阪市「オンライン授業」市長発言、万博教育プログラム…）
- ・ 「教育再生」（「新学習指導要領」の本格実施、道徳教育、愛国心教育…）
- ・ GIGA スクール構想に始まるデジタル化
- ・ 過激化する競争教育（全国学テ、チャレンジテスト、すくすくテスト…）
- ・ 公教育の市場化

→「グローバル人材」などの国のための「資質・能力」や、市場原理を重視する「教育」。

子どもの全面的な発達や学問そのものを軽視する施策

教育の中で最も大切にされるべきことは、「子どもたちの最善の利益」。

教育でもっとも利益を得るのは子どもたちである。そのことに背を向けてはならない。

1、子どものいのちを軽視する行政～「コロナだからしかたない」？～

- ① 遅い! 文科省 2021年8月27日、「学校で児童生徒等や教職員の新型コロナウイルスの感染が確認された場合の対応ガイドライン」→すでに2学期は始まっている!
- ② 行事はだめ、歌も駄目、オリパラはOK。
- ③ コロコロ変わる部活動について、行事について。
- ④ 保健所の業務がひっ迫→学校の活動中の濃厚接触者の調査が学校の仕事に→行政の失敗を学校にでも→結局していることは「お願い」。頑張っているのは学校現場、そして子どもたち
十分なPCR検査と、少人数学級の早期実現で、感染の予防と教育活動を並行できたのではないか?

子どもたちに「コロナだからしかたない」と諦めさせ、抑圧している。

→ 子どものいのちを軽視する教育行政

子どもたちは何を望んでいるのか?子どもたちの思いを行政は受け止めたのか?

現場では、子どもを受け止め、感染対策も両立させた工夫ある教育課程を、子どもと共に
つくる実践もなされている。

2、吹き荒れる新自由主義と態度主義、そして公教育の破壊

① 一気に進んだ GIGA スクール構想

GIGA スクール構想とは…

- 1・子どもたち 1 人が一台の端末を使えるようにします。
 - 2・端末を使って教育に関わるデータを国が集約して管理統制します。
(健康診断の結果、全国学テなどの調査結果、成績、等々…)
- 個人情報保護法の規制緩和を求めています。

② GIGA スクール構想をめぐる 4 つの問題

・ハード面 ・ソフト面 ・生活指導面 ・個人情報面

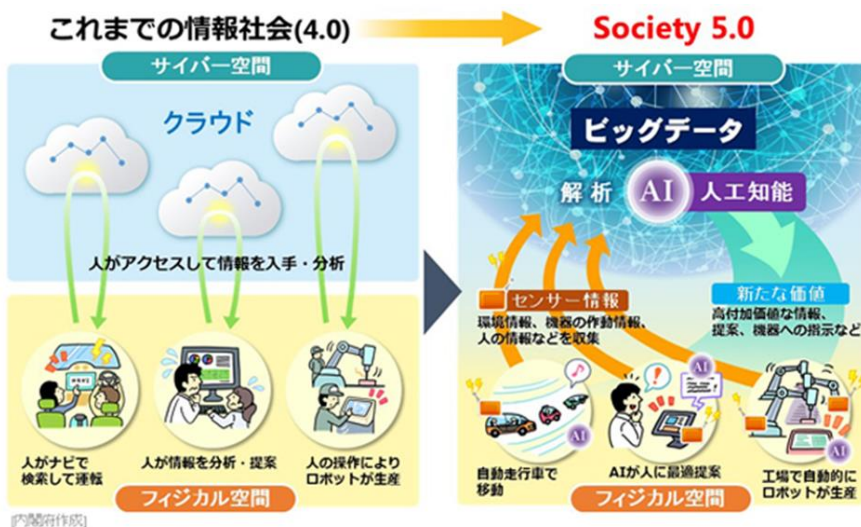
一気にやってきたことで、学校現場は「ハード面、ソフト面、生活指導面」でてんやわんやその陰で進む「個人情報の問題」。気づけば手遅れに…

「ビッグデータ」に気をつける！

国が子どもたちのデータを集約管理。そのデータは企業が自由に利活用できることに…

→「こども庁」「デジタル庁」と結びつく

教員免許更新制の「発展的解消」もデジタル化に結び付けられようとしている…



- ・ 内閣府が示している「Society 5.0」の社会のイメージ図(右半分)。人間は考えることをせず、一人一台端末を通じて勝手に人間のデータをビッグデータに収集、集積し、AI が解析して人間に提案を行う。人間は提案を受け入れる。→教育や、教員の研修などもこの姿に…
- ・ 今のままだと子どもたちのデータが無制限に企業に流出…→
GIGA スクール構想の前提として、「強力な法規制」が必要。

③ 国連・子どもの権利委員会 一般的意見 25 号 デジタル環境との関連における子どもの権利

デジタル環境と子どもについての国際的基準ともいうべきものです。ここには日本を含む世界中の子どもたちの提言が集約されています。

- ・ 締約国は、デジタル環境の整備、規制、設計、管理及び利用に関するすべての行動において、す

すべての子どもの最善の利益が第一次的に考慮されることを確保すべきである。

- ・ 全ての子どもたちに権利としてデジタル情報へのアクセスを平等に保障することを規定するとともに、最大級の規制と倫理規定により子どもたちを保護すること、子どもたちの権利の保障が述べられています。**GIGA スクール構想の強行に対する運動の中心になる国際的な基準** GIGA スクール構想や今の教育施策には、子どもたちの意見を聞く視点と、子どもたちを守る視点はありません。企業の最善の利益になっています。

④ ICT 機器は使えよう ポイントは、「本当に子どもたちのためになっているのか？」

「タブレットを使うことが目的」の授業になっていないか？

「タブレットを見て子どもを見ない」授業になっていないか？

教科の内容、子どもの実態や学びより「タブレットをいかに使えるようになるか」になっていないか？

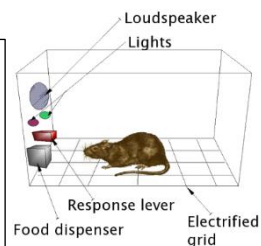
先進的に ICT を用いた教育を行っていた学校の先生の言葉。

→「タイピングは早くなったが、『全面的な子どもたちの発達』という面ではとくに効果は感じない。」

「デジタルドリル」「AIドリル」は、「電子スキナー箱」？

「スキナー箱」… レバーを押すと餌が出てくる、という機械のついた箱。

お腹を空かせたネズミを入れておくと、「レバーを押す（正解する）と餌が出てくる」ことを学習する。パチンコなどのギャンブル依存症を引き起こす機器と同じ仕組み。



・ ICT 教育は学力を向上させておらず投資のコストに見合う教育効果がない

・ 現状の日本で学習に適していると考えられる ICT 機器はプロジェクターのみである

慶應義塾大学 山田篤裕研究会

ビル・ゲイツ（Microsoft 創業者）、スティーブ・ジョブズ（Apple 創業者 ipad を発明）等「IT界の大物」の多くが「ICT機器が子どもたちに対して引き起こす悪影響から遠ざける」ために自分の子どもに対して ICT 機器を厳しく制限。

一方で、大事にしていたのは家族の会話や紙の本での読書、実体験。

会話、読書、実体験→これまで学校が大切にしてきたこと。

3、過度の序列化と選別、競争原理。

子どものころまで縛る、

小学生「大阪府新学力テスト(愛称：すくすくウォッチ)」(元「すくすくテスト」)

- ・ 権限を逸脱した実施
- ・ 子どもたちはへとへとに
- ・ 悪質なアンケート
- ・ 「わくわく問題を活用した指導案」まで作成(内容には「万博教育プログラム」も…)

中学校教育を歪める、中学生「チャレンジテスト」

・9月2日 感染爆発、休校続出の中強行。

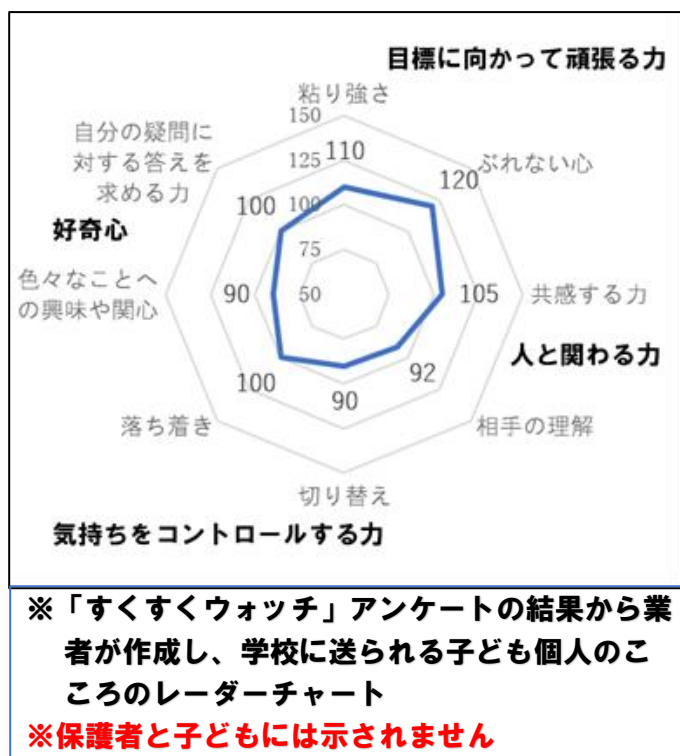
府下の35校が後日受験。学年の半数以上が当日受験していない学校も。

・ある市では…「濃厚接触者も別室受験」

本来出席停止であり、府も「後日受験となり、本人に不利益はない」としていた。

→保護者の「自分の子が濃厚接触者で受験できなければ不利益になるのでは」の声に市教委が焦る。

・子どもたちが不利益になる可能性を持つ「学力テスト」そのものの問題。



※ 全国学力量習状況調査もだが、「学力テスト」で見とれるのは「テストをした問題について」だけ。そもそも行政が一律にテストをすることは「違法」

子どもたちのためになりますか？→なりません

統一テストは子どもたちの間に序列化と選別をもたらし、教育を競争原理に基づく「点取り合戦」の場に変質させます。

「テストを増やせば学力が上がる」わけではない。

Ⅲ～まとめと今後の展望をふくんで～

新型コロナウイルスの影響の中、教育に様々な攻撃が加えられています。押し寄せる攻撃の中で、振り回されそうになりますが、教育が「子どもたちの最善の利益とならなければならない」ことに変わりはありません。「目の前の子どもの実態から始まる」という教育課程編成の原点は変わるものではありません。

今年度の教育のつどいが、これまでの実践から今後の学校教育についての展望を共有できる場となるとともに、逆風に立ち向かう参加と共同の力を生み出す場となることを期待して、基調報告とさせていただきます。

今日の全体会をスタートに、教育のつどい大阪 2021 が豊かな学びある研究活動の場となるよう、共に作り上げていきましょう。

大阪教職員組合 今井 政廣